

国際大会参加報告書

2009年11月10日

社団法人 日本ボディビル連盟

会長 玉 利 齊 様

報告者 政枝 勝憲 ㊞

大会名	第63回男子世界ボディビル選手権大会				
開催期間	2009 年 11 月 2 日 ~ 2009 年 11 月 5 日				
開催場所	国名:カタール		都市名:ドーハ		
参加国数	80 カ国		参加選手数	169 名	
役員			役 職 ・ 他		
	団 長	玉利 斎	(社) 日本ボディビル連盟会長		
	副団長	吉田 進	(社) 日本ボディビル連盟副会長		
	監督	政枝 勝憲	(社) 日本ボディビル連盟副会長		
	コーチ	大瀬 利行	マネジメント		
選 手	選 手 名	所属連盟	カテゴリー	順 位	備 考
	須江 正尋	埼玉	70kg級	5位	
	合戸 孝二	静岡	70kg級	6位	
	下田 雅人	神奈川	80kg級	10位	
レポート	11月1日成田AM10・45発～バンコック経由～ドーハまで18時間、到着は23, 30、現地スタッフ調達の車にて宿泊ホテルへ。20～30階建の近代的なビルが連立し、摩天楼である。ホテルは5星。シャワーをあびて寝たのが午前2時近く、2日朝IFBB会議出席の為前日より到着の玉利会長と合流。午後4時より技術委員会、審査委員会合、監督会議、体重測定と選手登録手続き。今年から特に変わったのはジャッジは予選でジャッジしたカテゴリーでは決勝では別のカテゴリーをする事になり10名ずつ5グループで実施することになった。体重測定、今年はアルファベット順の国別で測定の為、時間が掛かる。日本選手3名はすんなり通る。例年なら同クラスの選手の体も見れ、ある程度順位予想も出来るが、それも不可能だ。兎に角、体重測定が終わったので気持ちも落ち着き、後は予選突破だ。3日AM10時より予選ラウンド合戸、須江選手の70kg級は19名出場、15名の予選は楽々突破。6名の決勝進出の比較審査合戸、須江選手共3回ずつ呼ばれる。合戸選手のサイドチェスト、アブドリナル&サイが目立つ、須江選手もダブルバイ、ラットスプラットが目を引き他の上位に入りそうな選手と比較しても引けをとらない。上位進出間違いない。次に80kg級は16名出場、15名の予選は問題ない下田選手は比較では第1コールで呼ばれダブルバイ、ラットスプラット等は上位と遜色ない特にアウトラインは決勝に残ってもおかしくない。初出場にしては大健闘である。夜ホテルロビーに決勝進出者を掲示。70kg級の合戸、須江選手2名が決勝進出。過去最高の快挙である。決勝では合戸選手がトップバッター、予選審査(第1ラウンド)では3位。サイド、バックを主に豪快なポージングで観客を沸かせ6位入賞。須江選手はクラシックの音楽をバックにバレエダンサー顔負けの優雅なポージングに会場も大喝さいで5位入賞、(第3ラウンド)は2位。下田選手も80kgで世界で闘える自信を持った事と思います。私は予選では80kg級、決勝では70kg、100kg超級のジャッジを行った。				

※ 本報告書は帰国後1ヵ月以内に大会結果表を添付して日本連盟事務局に提出して下さい。

※ レポート欄が足りない場合は別紙に記入して添付して下さい。